

合成樹脂を使った平らな糸「フラットヤーン」やカーペット基布（下地）などを手掛ける渡辺化成（倉敷市連島町西之浦）は、独自展開する人工芝に防草機能を持たせた新製品

を開発した。裏側から不織布を貼り合わせることで雑草が生えてくるのを防ぎつつ、適度な水はけの良さも確保しているのが特長。今春中の発売を目指す。（河内慎太郎）

雑草防ぐ人工芝

渡辺化成 今春発売



不織布を貼り合わせて防草機能を持たせた人工芝の新製品

裏側から不織布 適度な水はけも

を手掛ける里庄工場（岡山県里庄町新庄）に運んで製品に仕上げる。約3千万円をかけて人工芝と不織布を貼り合わせる機械も導入した。現在展開する人工芝は1平方メートルあたり4620円で、新製品の価格は今後詰める。不織布の厚さなどの改良も進める。

渡辺化成は「新旧2製品の販路開拓を進め、人

人工芝は、特殊な織機を使ってポリプロピレン製の不織布を貼って防草、浸透機能製フラットヤーンの縦糸を保持させたほか、補強効果と横糸でメッシュ状の基布と芝を同時に織り上げている。基布を織った後に芝を一本ずつ植える一般的な製品に比べて2倍の弾力性があり、糸も抜けない。新製品では、

ポリエステル製の不織布をつれやすさなどが課題となっていた。新製品は課題を解消するとともに、景観を重視しながら雑草対策もしたいというニーズを取り込めるとみて開発した。

同社は2016年に人工芝を製品化。企業の敷地や学校のプールサイド、一般家庭向けなどに社市清音で生産し、フーズを取り込めるとみて開発した。

同社は1970年設立、資本金9180万円、売上高10億8千万円（2021年9月期）、従業員約60人。カーペット基布の国産シェアは5割を占めている。

展開してきたが、糸のほ